

R5 実務経験のある教員等による授業科目

学 部	理 工 学 部
学 科	食 環 境 学 科

N o	科目区分	授業科目名称	単位	担当教員	根拠資料 (シラバス)
1	基本教育	キャリア設計	2	稲葉 健太郎	○
2	基本教育	キャリア開発	2	稲葉 健太郎	○
3	基本教育	キャリア研究	2	稲葉 健太郎	○
4	基本教育	地域と政策	2	横江 信一	○
5	基本教育	いしのまき学	2	遠藤 郁子	○
6	基本教育	復興ボランティア学	2	佐々木 万亀夫	○
7	専門教育	食環境見学A	1	玉置 仁	○
8	専門教育	食環境見学B	1	玉置 仁	○
9	専門教育	食環境学実習Ⅰ	1	玉置 仁	○
10	専門教育	食品工学実習	1	前田 敏輝	○

単位数合計	16
-------	----

科目名	キャリア設計
職名／担当教員	経営学部 助教 稲葉 健太郎
曜日／時限	火曜日 1時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

＜授業概要＞ 本科目の目標は、自己を知り、社会を知ること、各自が自分にとって望ましい生き方・働き方はどのようなものであるかを自覚的に捉えることにある。具体的には、社会人・職業人として自立していくうえで必要とされるのはどのような「力」であり、それをどのように生かしていけばよいのかを学ぶとともに、さまざまな課題学習をとおして自己を理解し、大学生活の目標設定の方法と将来設計のための手法を身に付ける。 なお授業は、それぞれのテーマごとに課題解決的な演習や学内外から講師を招いての講義とするが、その学習内容に応じてアクティブラーニングやコミュニケーションスキルアップのための各種トレーニングを取り入れる。 ＜DPとの関連＞ 1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆ 2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:- 3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:- 4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:- [☆:関連するもの、-:関連しないもの] [授業の方法] ＜授業形態＞ パワーポイントと配布資料を活用しながら、講義形式ですすめる。各クラスに分かれる場合は、グループワークや発表などの演習を行う。なお、外部講師からの講話の後は振り返りシートを書かせ、講義内容の定着を図る。 ＜授業計画＞ 【対面科目】 (1)ガイダンス:講義の約束・進め方及び講義内容を確認する。＜自己紹介カード＞ (2)自己理解へのトライ:自己の特性を知り、進路について考える。 (3)大学生活を知ろう:自己理解、高校生と大学生の違いを知る。 (4)大学生活の目標(座談会):学部代表学生6名からそれぞれの目標を発表してもらう。＜振り返りシート1＞ (5)演習1:振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表し合う。 (6)演習2:ディスカッションを基に、大学生活の目標を設定し、レポートにまとめる。＜課題レポート1＞ (7)社会人に必要な力を知ろう:石巻専修大学OB・OG3名による座談会。＜振り返りシート2＞ (8)演習3:演習の手順についてパワーポイントを用いて説明した後、各クラスに分かれて演習を行う。 (9)演習4:社会人に必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。 (10)演習5:班ごとに発表し合い、社会人に必要な力をレポートにまとめる。＜課題レポート2＞ (11)キャリアをデザインしていくために必要な力:石巻地域で活躍している3名の鼎談。＜振り返りシート3＞ (12)振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表を行う。 (13)演習6:キャリアをデザインしていくために必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。 (14)演習7:各班でまとめたものを班ごとに発表し合う。 (15)キャリア設計の講義を振り返り、大学生活をデザインする。＜課題レポート3＞ ※1 演習やアクティブラーニングを取り入れるため、サポート教員を配置する。 ※2 サポート教員は、それぞれのクラスを掌握し、出欠確認やレポートの点検評価、演習等の助言に当たる。 ＜アクティブラーニング取り入れ状況＞ 講話等の振り返りでグループワークやグループ発表を適宜取り入れる。 ＜課題に対するフィードバック方法＞ 講義ごとに振り返りシートや課題レポートを書かせる。振り返りシートは演習の参考にするため、評価後にできるだけ早く返却する。また、ベストシートやベストレポートを適宜紹介する。

教科書／参考書

＜教科書＞:使用しない。 ＜参考書等＞:講義ごとに資料を配布する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞ 平常の学習状況(20%)、振り返りシートや課題レポート(60%)、演習・発表内容(20%)等により総合的に評価する。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞ 事前学習:単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料をもとに予習復習を行うこと。特に、レポート課題については、図書館やインターネットを活用し、自分の言葉でまとめるようにすること。(2時間) 事後指導:授業終了後、その内容を振り返り、自分の考えをまとめる。(2時間) ＜科目の位置づけと他科目との関連＞ 「キャリア設計」は、キャリア教育の土台になるので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の事業も併せて受講することが望ましい。

担当教員へのアクセス

3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)

その他

単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料のみならず、自分で調べた資料を整理してファイルしておくこと。

＜オフィスアワー＞

相談は随時受け付けます。

(実務経験のある教員による授業)

オムニバス形式で多様な企業や本学OB・OG等を講師に招き、実務経験に沿った助言を行っている。

科目名	キャリア開発
職名／担当教員	経営学部 助教 稲葉 健太郎
曜日／時限	金曜日 1時限
期 間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

＜授業概要＞ 社会人として豊かな職業人生を歩んでいくためには自己理解と社会・職業理解が必須である。また、大学生にとってキャリアとは就職活動のみを指すのではなく、人生そのものについて考え、実践していくものである。よって、在学中または卒業後に豊かなキャリアを歩んでいくために次の事項を中心に授業を構成する。 ・自己のキャリアを体系的にデザインするためのキャリアに関する諸理論を学ぶ。 ・就職活動における自己理解と業界・職業分析の必要性と方法を学ぶ。 ・ビジネス現場で求められるマナーについて学ぶ。 ・具体的な卒業後のキャリアの事例について学ぶ。 前半は主に講義を通してキャリアに関する諸理論や自己理解、業界・職業研究の方法について学ぶ。また、実際に企業が抱えている課題について解決を試みる実習も行う。後半にはゲストスピーカーを招き、企業の現場の話題を提供してもらうとともに、学生に対してどのように考えているのかについて講義をしてもらう。 ＜DPとの関連＞ 1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆ 2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:- 3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:- 4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:- [☆:関連するもの、-:関連しないもの] ＜到達目標＞ ・自己分析と業界・職業研究をすることができるようになる。 ・社会人に必要な基礎力とは何かを理解する。 ・ゲストスピーカーの話聞くことで企業の現場について知ることができる。 [授業の方法] ＜授業形態＞ 講義形式で行う。授業は通年で15回とする。予定表に従って講義に参加してもらうことになる。講義は主に担当教員の他、外部講師やゲストスピーカーが担当することもある。 ＜授業計画＞ 【対面科目】 (1)ガイダンス (2)キャリアとは何か・社会人基礎力について (3)キャリアを考えるための発想法 (4)就職活動の両輪 (5)働き方を知る (6)自己分析の実践 (7)課題解決能力を身につける① (8)課題解決能力を身につける② (9)課題解決能力を身につける③ (10)キャリアインタビュー①(ゲストスピーカー) (11)キャリアインタビュー②(ゲストスピーカー) (12)キャリアインタビュー③(ゲストスピーカー) (13)キャリアをデザインする① (14)キャリアをデザインする② (15)まとめ ＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞ キャリア開発ではグループワークを取り入れている。他者との交流を通して自己理解を深める。また、インターンシップや就職活動、就業後の活動に向けた実践的なワークを実施する。ポスターやPowerPoint等を使用したプレゼンを行うこともある。 ＜課題に対するフィードバック方法＞ 講義の振り返り用のレポートを提出し、それについてフィードバックを行う。

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞ 教科書:講義で指定する。 参考書等:講義で指定する。
--

成績評価方法・基準

＜評価方法＞ (1)試験・テストについて 試験は行わない。 (2)試験以外の評価方法 レポートによる評価を行う。 (3)成績の配分・評価基準など 平常の学習状況(20%)、事前学習・事後学習・レポート(80%)等により総合的に評価する。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞ 事前学習:授業で配布された参考資料をもとに予習復習を行い次の授業の準備をしておくことが望ましい。キャリアインタビューにおいては就職資料室やインターネットを活用し、業界や業種、職種等について知りたいことを調べ質問できるようにしておくことが望ましい。(2時間)
--

事後学習: 自己分析や職業・業界研究を個人で進める。(2時間)

<他科目との関連>

1年次で学習した「キャリア設計」を踏まえ、3年次の「キャリア研究」つながるものである。キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと、また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の行事にも併せて参加、受講することが望ましい。

担当教員へのアクセス

3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)

その他

<オフィスアワー>

相談は随時受け付けます。

(実務経験のある教員による授業)

キャリア教育に関する外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育を行う。

科目名	キャリア研究
職名／担当教員	経営学部 助教 稲葉 健太郎
曜日／時限	木曜日 4時限
期 間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> キャリア教育の仕上げ段階として、実践的なノウハウや実例を中心に各界の専門家によるオムニバス形式の授業である。自分の人生を有意義なものにするために主体的に取り組むこと。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:- ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:- ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:- [☆:関連するもの、-:関連しないもの] <到達目標> 将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身に着ける。 [授業の方法] <授業形態> 進路ガイダンスへの参加及び企業が行う就業体験への参加を以て授業とする。 <授業計画> 【対面科目】 (1)就職活動の心構え、各種手続き、情報収集法 (2)履歴書・エントリーシート作成講座 (3)自己分析講座 (4)業界・企業・職種研究のノウハウ (5)社会や会社の常識 (6)社会人に必要なビジネスマナー (7)好印象を与える身だしなみ、リクルートファッション (8)一般試験(SPI)対策講座 (9)面接対策講座① 採用面接を受ける心構え (10)面接対策講座② グループディスカッションに備えて (11)企業の採用担当経験者による「来て欲しい人物像」 (12)本学卒業生による業界、職種の事例紹介 (13)就業体験の解説 (14)就業体験 (15)就業体験発表会 上記の授業計画は講師の都合等で順序が前後することがある。また、この他にも授業の一環として就業体験の①受入先との調整、②申込み書類の添削指導、③必要に応じ事前研修、④発表会の準備を行うことがある。 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 就業体験として企業や地方自治体等の組織で各種の体験を積んでもらう。 <課題に対するフィードバックの方法> 毎回交替で別な講師が講義するため、各講義における質問等は講義終了後に担当講師が受け付ける。 全体的なスケジュールやテーマの選択に関しては担当教員(就職指導部長)に相談してほしい。

教科書／参考書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。 参考書として、一般的な就職支援書籍(SPI攻略本や社会人マナー)の中から気に入ったものを持っていると就職活動の助けになる。
--

成績評価方法・基準

<評価方法> ・講座形式での平常の学習状況 ・受講後のレポート ・就業体験の内容 ・就業体験発表会でのプレゼン内容 により総合的に評価する。 ただし、就業体験に参加を希望したものの実施先企業等の都合で実現できなかった場合には救済措置を考慮する。

履修上の留意点

<準備学習> ・講座形式の際は特に準備を要しないが、高い意識で望むこと。 ・就業体験の際は事前に就業先について十分に研究して望むこと。 <事後学習> ・講座を受講後にレポートを提出いただく。内容は毎回指示する。 ・就業体験では修了後にプレゼン資料を作り発表いただく。 <科目の位置づけと他科目との関連> ・キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするために主体的に取り組むこと。 ・自分の適性や将来の目標について考える機会であるので、何事も主体的に取り組むことが望まれる。このため、これまで学習した「キャリア設計」・「キャリア開発」の内容を復習しておくことが望ましい。 <就業体験> ・就業体験に参加する場合には、しっかりと事前準備し望むこと。

- ・就業派遣先での無断欠席や遅刻など迷惑となる行為は厳禁。
- ・就業派遣先や日程の決定は、個別に指導、調整する。
- ・学外での行動は安全に最大限の注意を払うこと。

担当教員へのアクセス

3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)

その他

<オフィスアワー>

相談は随時受け付けます。

(実務経験のある教員による授業)

就業体験の事前事後指導に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育と就業体験を行う。

科目名	いしのまき学
職名／担当教員	人間学部 教授 遠藤 郁子 ／ 人間学部 特任教授 横江 信一
曜日／時限	水曜日 2時限
期 間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> 皆さんが大学生活を送る石巻市は「SDGs未来都市」に選定され、2030年までに持続可能な地域社会を実現するためのさまざまな取り組みを行っている。この授業では、石巻市とその圏域について知り、ともによりよい地域社会を実現してゆくための課題を発見し、その一員としてできることは何かを思考し、主体的な行動につなげていくための学びの基盤を身につける。 オムニバス形式で実務経験のある複数の外部講師などを招き、石巻圏域の歴史・文化・社会について、さまざまな角度から地域を理解するとともに、学生生活を通じて地域に貢献しながら地域の中で学ぶ方法を実践的に学ぶ。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: ☆ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]: ☆ ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: ー [☆: 関連するもの、ー: 関連しないもの] <到達目標> (1)石巻圏の歴史・文化・社会についての基礎知識を身に付け、地域社会の課題について多面的に思考できる。 (2)大学の学びの中で有効に情報ツールを活用し、適切に情報収集・整理・発信することができる。 [授業の方法] <授業形態> 配布プリントやPowerPointなどを用いて、オムニバス講義形式で授業をすすめる。 <講義計画> 【対面科目】 1(4/12) ガイダンスー「分からない」と向き合う 2(4/19) 「誇れる石巻を目指して～石巻に住んで良かったと思えるまちづくり～」齋藤正美(石巻市長) 3(4/27) 東日本大震災からの大学の取組と地域社会連携尾形孝輔(石巻専修大学) 4(5/10) 石巻市の取組と課題担当者未定(石巻市政策企画課) 5(5/17) 石巻と地域メディア山口 紘史(石巻日日新聞社) 6(5/24) 石巻の歴史大島幹雄(石巻学プロジェクト) 7(5/31) 石巻の自然環境平井和也(石巻・川のビジターセンター) 8(6/07) 石巻市博物館ミュージアム・トーク担当者未定(石巻市生涯学習推進課) 9(6/14) 石巻で働く松本裕也(フィッシャーマン・ジャパン) 10(6/21) 石巻を遊ぶー川開き祭について毛利広幸(石巻商工会議所) 11(6/28) 石巻の街づくり木村仁(街づくりまんぼう) 12(7/05) 石巻の人づくり千葉均(ポプラ社) 13(7/12) SDGsが抱える課題／石巻が抱える課題を考える 14(7/19) SDGs未来都市いしのまきの実現に向けて横山泰治(サステナブルコミュニティ共創機構) 15(7/26) 総括ー石巻というフィールドでわたしたちができること ※ 第2回(4/19)と第8回(6/7)は、「マルホンまきあーとテラス(石巻市複合文化施設)」訪問を予定しています。 <アクティブラーニングの取り入れ状況> ・グループワークを行う。・リアクションペーパーを使用する。 <課題に対するフィードバック方法> 毎時間の課題や学生からのコメントに対するフィードバックは、講義内やInCampusなどで適宜行う。
--

教科書／参考書

<教科書>なし <参考文献>講義内やInCampusを通じて適宜紹介する。
--

成績評価方法・基準

(1)評価方法 <成績評価方法・基準> (1)試験・テストについて 試験は実施しない。 (2)試験以外の評価方法 期末の課題レポート、および各回後に実施するリアクションペーパー・指定課題への取組を求める。 (3)成績の配分・評価基準等 リアクションペーパー・指定課題(60%)、期末の課題レポート(40%)により総合的に評価する。講義の内容を理解し、的確にまとめ、与えられたテーマについて論じることができているかを基準とする。平常点で評価。

履修上の留意点

事前学習:それぞれの講義テーマについての事前調査を行う。指定課題に取り組む。(120分) 事後学習:講義内容について復習し、講義テーマに関する指定課題に取り組む。(120分)
--

担当教員へのアクセス

遠藤研究室:3号館2階 3216研究室 メールアドレス: endo@isenshu-u.ac.jp 横江研究室:3号館2階 3221研究室

メールアドレス: yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他

〈オフィスパワー(遠藤)〉

時間帯:金曜日 13:00~15:00

場所:遠藤研究室(3号館2階 3216研究室)

〈オフィスパワー(横江)〉

時間帯:金曜日 13:00~15:00

場所:横江研究室(3号館2階 3221研究室)

科目名	復興ボランティア学
職名／担当教員	経営学部 教授 佐々木 万亀夫
曜日／時限	水曜日 5時限
期 間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> 東日本大震災後に数多くの災害ボランティアが多くの被災地で活躍しました。最も多数の被害者を出した地方自治体であります石巻市においても、全国から多くの個人・団体（NPO、NGOなど）の災害ボランティアが集まって来ました。石巻専修大学には、石巻市社会福祉協議会が中心である石巻市災害ボランティアセンターが設置され、災害ボランティアが活躍できる基盤および拠点が構築されました。さらに、自立して活動できるNPO・NGOは石巻災害復興支援協議会（現在の公益社団法人3.11みらいサポート）を設立し、石巻市災害ボランティアセンターを経由せず、自分たちでニーズを見つけて復旧活動に取り組みました。 本授業では、大震災後から現在まで時間とともに変化していく石巻地域の課題に向き合ってきた団体等のリーダーや本学の教員を講師として、大震災後の復興の状況を学びます。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識 [知識・理解]: ☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力 [汎用的技能]: — ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢 [態度・志向性]: — ④創造的思考力と研究遂行能力 [統合的な学習経験と創造的思考力]: — <到達目標> ・石巻地域で活躍している復興に携わる団体の実態の理解 ・小さなことでも良いから、自分から進んで復興に貢献すること [授業の方法] <授業形態> Power Pointと配布資料を用いて「講義・演習形式」で進めます。 <授業計画> 【対面科目】 尚、講師の都合により、授業の内容と順番が変更されることがあります。 【第1部 被災から復旧へ】 (1) 授業概要、NPOとボランティアについて（佐々木） (2) 東日本大震災の概要（いしのまきNPOセンター理事 四倉禎一郎） (3) 東日本大震災時の大学の役割1（避難所としての機能）（佐々木） (4) 東日本大震災時の大学の役割2（復旧活動拠点としての機能）（佐々木） (5) 災害とボランティア（石巻市社会福祉協議会生活支援課 主幹 今野啓夫） (6) 震災後のボランティアとNPO活動について（いしのまきNPOセンター代表理事 木村美保子） (7) ボランティア活動における中間支援の役割（いしのまきNPOセンター副代表理事 木村正樹） (8) 課題演習1 【第2部 復旧から復興へ】 (9) がんばろう石巻の看板の活動を通して思うこと（いしのまきNPOセンター副代表理事 黒澤健一） (10) 東日本大震災直後のボランティアとNPOの協働（3.11メモリアルネットワーク専務理事 中川政治） (11) 震災を契機とした子ども、子育て当事者による取り組み （ベビースマイル石巻理事 荒木裕美、いしのまき子どもセンターコンソーシアム 吉川恭平） (12) どんな境遇の子どもにも向き合い続ける学生ボランティア活動（TEDIC代表理事 鈴木平） (13) （仮）震災後のコミュニティづくりと未来に向けた協働 （石巻いちれん事務局長/いしのまき会議共同代表理事 田上琢磨） (14) 子どもの居場所作り、遊び場作り活動における大学生ボランティアの役割 （にじいろクレヨン理事長 柴田滋紀） (15) まとめ、課題演習2 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 理解度の確認のため、授業の終わりに毎回小テストを行います。また、2回課題演習を行います。 <課題に対するフィードバック方法> 必要に応じて、小テストや講義演習の際にコメントや説明をします。なお、課題演習は講義の復習を兼ねています。

教科書／参考書

<教科書> 特に指定はありません。プリントを配布します。 <参考書> 特に指定はありません。
--

成績評価方法・基準

<評価方法> 小テスト(50%)、課題演習(50%)にて総合評価します。

履修上の留意点

<事前学習・事後学習> 事前学習: 日頃からボランティアやNPOに関する新聞記事や雑誌等を見て、授業に関する教養を深めること。(90分) 事後学習: 配布するプリントを十分に復習すること。(150分) <他科目との関連> いしのまき学、ボランティア論などの理解を深めるのに役立つ科目です。
--

担当教員へのアクセス

研究室:3号館1階3120研究室
メールアドレス:msasaki@isenshu-u.ac.jp

その他

<オフィスアワー>

講義内容に関する質問は 3120研究室で随時受け付けます。

<実務経験のある教員による授業>

外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。

科目名	地域と政策
職名／担当教員	人間学部 教授 横江 信一
曜日／時限	火曜日 5時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要>

分権改革後の自治体は、自治体運営の主体としての責任が大きくなり、都道府県、市町村を問わず、それぞれの自治体は、地方制度の枠組みのなかで、自らがもつさまざまな資源を活用しつつ住民の求める政策を展開することになった。この講義では、学外から招いた自治体職員等地方行政に携わっている実務家を中心とした講師陣が、政策主体としての自治体という観点から、制度、政策など自治体が当面する課題について論ずるとともに、近年顕著となってきたコミュニティ論に立脚した自治と地域社会の在り方についても取り上げ、地域コミュニティの変遷とコミュニティ理論について概観したうえで、まちづくりに当たって必要とされる地域住民と自治体の連携について理解する。

<DPとの関連>

- ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ☆
 ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: ー
 ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]: ー
 ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: ☆
 [☆:関連するもの、ー:関連しないもの]

<到達目標>

テーマ:地域政策の現状把握と課題追究からまちづくりを展望する。

到達目標:行政担当者による施策の解説を通して、地域政策の方法と現状を把握し、まちづくりに必要とされる地域住民と自治体の連携の在り方について理解することができる。

[授業の方法]

<授業の形態>

配布資料、パワーポイントを使用しながら行政担当者による基調講話(30分を基に、グループディスカッションと組み合わせたグループワークによる演習を行う。授業計画通りに実施する予定にしているが、石巻市役所、東松島市役所、女川町役場の担当職員が講義を行うため、人事異動等から多少の変更が予想される。決定次第、内容については授業で使用する資料は教員が用意する。

<授業計画>

【対面科目】

- (1) 講義の概要説明
- (2) 地域政策と地方自治、選挙管理委員会の役割
- (3) 地域の現状と政策
- (4) 石巻市の施政方針について(石巻市)
- (5) 地域防災の取組について(石巻市)
- (6) 石巻市の産業観光政策について(石巻市)
- (7) 石巻市の地域政策のまとめ
- (8) 東松島市の施政方針(東松島市)
- (9) 東松島市のコミュニティ・スクール事業について(東松島市)
- (10) 産業観光政策の事例(東松島市)
- (11) 東松島市の地域政策のまとめ
- (12) 女川町の施政方針(女川町)
- (13) 産業観光政策の事例(女川町)
- (14) 安全・安心なまちづくりに関する(女川町)
- (15) 女川町の地域政策のまとめ

<アクティブラーニング取り入れ状況>

グループ討議と全体発表を行う。グループワークとプレゼンテーションによるまとめを行う。

<課題に対するフィードバック方法>

基調講話を聞きながらメモを取り、グループ討議によって自分自身の考えを小レポート(振り返りシート)にまとめ、回収する。小レポート(振り返りシート)の回収後コメントを記入して返却する。

教科書／参考書

<教科書>:使用しない。

<参考書等>:授業で紹介する。

成績評価方法・基準

<評価方法>

- (1) 試験・テストについて
試験は実施しない。
- (2) 試験以外の評価方法
授業中に小レポート(振り返りシート)を作成する。(全12回)
課題レポートを時間内に行う。(1回)
- (3) 成績の配分

成績評価基準

成績区分は、Sが100～90点、Aが89～80点、Bが79～70点、Cが69～60点、59点以下を不合格とする。出席を重視し、評価は授業への貢献度(60%)、授業中の小レポート(10%)と最終課題レポート(30%)であり、レポートや発表および平常の学習状況により総合的に評価する。講義を欠席した(する)学生は必ず理由を明示した欠席届を提出すること。欠席理由により、配慮することもある。

履修上の留意点

<事前学習・事後学習>

事前学習：石巻地域は東日本大震災からの復興過程である。新聞等には復興に関する記事が多々掲載されているので、特に注意を払ってほしい。また、授業の前には石巻市役所、東松島市役所、女川町役場（各部・各課）の仕事の内容をホームページで調べておくこと。（2時間）

事後学習：日頃から日常生活や社会に関する問題や課題、社会の動きについて情報収集を行うことが望ましい。（2時間）

<他科目との関連>

地域の行政施策を理解する上でいのまき学、地域産業論、地域経営論と相互に関連する科目なので、これら3科目とも履修することが望ましい。

担当教員へのアクセス

研究室：3号館2階3221

メールアドレス：yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他

授業内容に関する質問は、授業中及び授業終了時に随時受け付ける。

<オフィスアワー> 相談は随時受け付ける。

（実務経験のある教員による授業）

圏域行政等の課題に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。

科目名	食環境見学A
職名／担当教員	理工学部 教授 玉置 仁
曜日／時限	定時外 1時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	1

講義内容

<授業概要> 食環境学科で行われている教育研究内容に関連した企業、生産現場あるいは研究所などを見学し、大学における日常の講義、実験、実習では得ることの難しい実践的な知識や技術を学ぶ。 <学位授与方針(DP)との関連> ① 幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:－ ② 情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:－ ③ 主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:☆ ④ 創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:－ [☆:関連するもの、－:関連しないもの] <到達目標> ・企業や生産現場の見学に際して必要なマナーを身につける。 ・企業をはじめとする様々な職場に対して興味・関心をもつ。 ・企業や生産現場の業務内容や研究活動などを学ぶ。 ・社会で活躍するために何を学べば良いかを考える。 [授業の方法] <授業形態> 座学(ガイダンス等の事前教育)、ならびに学外等での実習。 <授業計画> 【対面科目】 6月頃にガイダンスと事前教育を開始し、見学については夏季休暇期間中や補講期間等を実施する予定である。日程は2日間とし原則として1日2ヶ所を訪問するが、状況に応じて1ヶ所の場合もある。交通機関としては大学バスを利用する。訪問に先立ち、訪問先の会社紹介パンフレットや関連図書をもとに事前調査や説明会を実施する。今年度の訪問先は未定。以下に訪問例をいくつか挙げる。 (1)株式会社石巻魚市場 (2)株式会社高政(かまぼこ製造工場) (3)株式会社ニチレイフーズ白石工場(世界一の冷凍コロッケ工場) (4)石越醸造株式会社(酒造会社) (5)有限会社伊豆沼農産 (6)株式会社白謙蒲鉾店 (7)ニッカウヰスキー株式会社仙台工場 (8)ヤマカノ醸造株式会社 (9)宮城県食肉検査所見学 (10)上下水道処理施設 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 教員の説明を聞いてから、各自または各グループで協力しながら実習を進めて、レポート等にまとめる。 <課題に対するフィードバック方法> 実習中に、学生からの疑問点に応答し、実習をスムーズに進行させる。

教科書／参考書

<教科書・参考書等> 教科書:使用しない。 参考書:訪問先パンフレット等。
--

成績評価方法・基準

ガイダンス、事前教育、見学時の学習態度、および事前調査・見学後のレポートにより総合的に評価する。
--

履修上の留意点

<履修に際して> 履修を希望するものは、必ず食環境学科主任と面談すること。 <準備学習> (1)事前調査:各見学先の沿革、業務内容、主力製品(あるいは主要設備)、社会活動への取り組みなどを調査する。調査内容をもとに、当日見学先での質問事項を準備する(事前学習60分)。 (2)見学・調査結果:見学内容の整理、見学によってはじめて知り得た情報、事前調査で準備した質問事項に関する調査結果をまとめる(事後学習60分)。 <他科目との関連> 見学する現場は食と環境にこだわらずに理工系学生として関心の持てる場所を選定する。事前調査および見学時には食環境学科の関連科目で修得した知識を十分に活用すること。

担当教員へのアクセス

in Campusを通じて連絡すること。

その他

- (1)服装は工場見学に適した節度あるものであること。スカートの着用禁止(見学先に応じて指示する)。
- (2)安全第一の場所であるため、ヒールの高い靴は場にそぐわないから着用禁止。

(3)靴の履き替えを行うことが多いので、編上げブーツなどのような着脱に時間を要する靴は履かないこと。

(4)遅刻や無断欠席は厳禁である。

(5)土曜日、日曜日、長期休暇期間等を利用した集中授業とする。実施方法についての連絡や、事前のガイダンスを見逃さないように注意すること。

(実務経験のある教員による授業)

学外での実習を授業の中心に位置づけ、企業の現状課題等を実践的教育によって学ぶ。

科目名	食環境見学B
職名／担当教員	理工学部 教授 玉置 仁
曜日／時限	定時外 1時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	1

講義内容

<授業概要> 食環境学科で行われている教育研究内容に関連した企業、生産現場あるいは研究所などを見学し、大学における日常の講義、実験、実習では得ることの難しい実践的な知識や技術を学ぶ。 <学位授与方針(DP)との関連> ① 幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:－ ② 情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:－ ③ 主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:☆ ④ 創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:－ [☆:関連するもの、－:関連しないもの] <到達目標> ・企業や生産現場の見学に際して必要なマナーを身につける。 ・企業をはじめとする様々な職場に対して興味・関心をもつ。 ・企業や生産現場の業務内容や研究活動などを学ぶ。 ・社会で活躍するために何を学べば良いかを考える。 [授業の方法] <授業形態> 座学(ガイダンス等の事前教育)、ならびに学外等での実習。 <授業計画> 【対面科目】 6月頃にガイダンスと事前教育を開始し、見学については夏季休暇期間中や補講期間等を実施する予定である。日程は2日間とし原則として1日2ヶ所を訪問するが、状況に応じて1ヶ所の場合もある。交通機関としては、大学バスを利用する。訪問に先立ち、訪問先の会社紹介パンフレットや関連図書をもとに事前調査や説明会を実施する。今年度の訪問先に関しては未定。以下に訪問例をいくつか挙げる。 (1)株式会社石巻魚市場 (2)株式会社高政(かまぼこ製造工場) (3)株式会社ニチレイフーズ白石工場(世界一の冷凍コロッケ工場) (4)石越醸造株式会社(酒造会社) (5)有限会社伊豆沼農産 (6)株式会社白謙蒲鉾店 (7)ニッカウヰスキー株式会社仙台工場 (8)ヤマカノ醸造株式会社 (9)宮城県食肉検査所見学 (10)上下水道処理施設 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 教員の説明を聞いてから、各自または各グループで協力しながら実習を進めて、レポート等にまとめる。 <課題に対するフィードバック方法> 実習中に、学生からの疑問点に応答し、実習をスムーズに進行させる。
--

教科書／参考書

<教科書・参考書等> 教科書:使用しない。 参考書:訪問先パンフレット等。
--

成績評価方法・基準

ガイダンス、事前教育、見学時の学習態度、および事前調査・見学後のレポートにより総合的に評価する。
--

履修上の留意点

<準備学習> (1)事前調査:各見学先の沿革、業務内容、主力製品(あるいは主要設備)、社会活動への取り組みなどを調査する。調査内容をもとに、当日見学先での質問事項を準備する(事前学習60分)。 (2)見学・調査結果:見学内容の整理、見学によってはじめて知り得た情報、事前調査で準備した質問事項に関する調査結果をまとめる(事後学習60分)。 <他科目との関連> 見学する現場は食と環境にこだわらずに、理工系学生として関心の持てる場所を選定する。事前調査および見学時には食環境学科の関連科目で修得した知識を十分に活用すること。

担当教員へのアクセス

ガイダンス時に連絡する。

その他

- (1)服装は工場見学に適した節度あるものであること。スカートの着用禁止(見学先に応じて指示する)
- (2)安全第一の場所であるため、ヒールの高い靴は場にそぐわないから着用禁止。
- (3)靴の履き替えを行うことが多いので、編上げブーツなどのような着脱に時間を要する靴は履かないこと。
- (4)遅刻や無断欠席は厳禁である。
- (5)土曜日、日曜日、長期休暇期間等を利用した集中授業とする。実施方法についての連絡や、事前のガイダンスを見逃さない

いように注意すること。

(実務経験のある教員による授業)

学外での実習を授業の中心に位置づけ、企業の現状課題等を実践的教育によって学ぶ。

科目名	食環境学実習 I
職名／担当教員	理工学部 教授 玉置 仁
曜日／時限	定時外 1時限
期 間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	1

講義内容

<授業概要> 食環境学実習IIは、専門教育(2年次以降本格的に行われる)への入口として設けられた必修科目である。食と環境に関する対象物を、実際に手に取り観察し調査することで、専門分野への興味・関心を高めると同時に、実際の現場において専門科目がどのように活用されているのかを理解し、今後の食と環境に関する専門科目への取り組みに対するモチベーションを高めるのが目的である。具体的には、宮城県内の海や湖などの水辺の環境調査や、各種加工食品の試作、身近な食品の成分分析などを行う予定である。 <学位授与方針(DP)との関連> ① 幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ー ② 情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: ☆ ③ 主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]: ☆ ④ 創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: ー [☆:関連するもの, ー:関連しないもの] <到達目標> ・調査・実習において、一定のルールの下、グループ活動が行える ・生物に関わる自然環境調査法の基本を習得する ・初歩的な食品加工や食品分析操作を体験し、食品製造に関わる理工学的基礎知識を体得する [授業の方法] <授業形態> 実習担当教員の指導に準ずる。 <授業計画> 【対面科目】 野外実習、屋内作業実習を2回以上実施する。以下にテーマを例示する。学科の専任教員が分担して担当する。土曜日、日曜日、長期休暇期間等を利用した集中授業とし、事前にガイダンスや予備調査を行うこともある。野外実習については、天候、調査地の状況、参加人数などにより予定を変更することもある。以下にこれまでの実施例および想定される実習の一例を記載する。 (1)浅海域に生息する生物の種類とその分布 (観察場所:万石浦大浜地区) (2)水辺に生息する生物の種類とその現状 (観察場所:宮城県伊豆沼、もしくは田代島学校浜) (3)レトルトパウチ食品、缶詰等の試作 (4)身近な食品の成分分析 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 教員の説明を聞いてから、各自または各グループで協力しながら実習を進めて、レポート等にまとめる。 <課題に対するフィードバック方法> 実習中に、学生からの疑問点に応答し、実習をスムーズに進行させる。

教科書／参考書

<教科書・参考書等> 教科書:使用しない。事前に資料を配付する。 参考書:水辺の環境については、「日本の海藻」千原光雄(学研)1,900円(税別)、 「日本の水生動物」武田正倫(学研)1,900円(税別)、「日本の貝1」奥谷喬司(学研)1,900円(税別) 「日本の貝2」奥谷喬司(学研)1,900円(税別)など

成績評価方法・基準

2回の実習への参加を原則とする。学習状況と実習時に出题された課題のレポートにより、総合的に評価する。追実習に関しては、提出された欠席届(欠席理由を明示すること)に基づき、担当教員が正当と認めた場合に限り実施する。

履修上の留意点

<履修に際して> 履修を希望するものは、必ず食環境学科主任と面談すること <準備学習> 実習を安全に実施するために、ガイダンスにも必ず出席すること。 ガイダンスで指示された準備は各自必ず実行すること。実習前に配付された資料に必ず目を通し、実習の流れや作業手順の概略を把握しておくこと(事前学習30分)。 実験終了後、速やかにデータ整理を行って結果をまとめるとともに、関連する文献調査と併せてレポートを執筆すること(事後学習90分)。 <他科目との関連> この科目は、専門科目への導入と位置づけられている。1年次には共通科目の履修が主となるので、自分が4年間で学ぶ学問の方向性を見失いがちである。2年次以降に、講義や実験でより高度な内容の専門科目を勉強することになるが、この実習でその入口をのぞくつもりで履修して欲しい。
--

担当教員へのアクセス

担当教員へのアクセス方法はガイダンス時に連絡する。ガイダンス以前に質問等のある場合には、食環境学科主任に問い合わせること。
--

その他

土曜日、日曜日、長期休暇期間等を利用した集中授業とする。実施方法、ガイダンス実施等についての連絡を見落とさないように注意すること。

(実務経験のある教員による授業)

学外での実習を授業の中心に位置づけ、実際の現場において宮城県内の海や湖などの水辺の環境調査や各種加工食品の試作、身近な食品の成分分析等の実践的教育を行う。

科目名	食品工学実習
職名／担当教員	理工学部 教授 前田 敏輝
曜日／時限	定時外 1時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	1

講義内容

<授業概要> 3年次前期までに学んだ基本的な技術・知識を生かしながら、食料の生産・加工・製造・流通の過程や品質管理について学内外での実習を行う。様々な食品関連産業の現場を訪問し、作業を実際に体験することで、食品工学が実地でどのように活用されているかを学ぶ。また、フィールドワークで採集した試料や自ら製作した食品を持ち帰り、加工、処理、分析などを行ったり、将来の卒研テーマと関連づけた実習を行うこともある。 <学位授与方針(DP)との関連> ① 幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:－ ② 情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:☆ ③ 主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:－ ④ 創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:－ [☆:関連するもの、－:関連しないもの] <到達目標> * 食品工学が食品産業の現場でどのように活用されているかを理解する。 * 加工食品の品質を調べる分析機器の原理と使用方法を理解する。 [授業の方法] <授業形態> 学外での実習・フィールドワークを取り入れた実習形式の授業である。 一部で板書、スライドを用いた講義形式の授業を行なう。 Zoom等による非対面授業を行なうことがある。その際はin Campus等で事前に連絡する。 <授業計画> 【対面科目】 以下に過去の実施例を挙げる。実施時期、内容は掲示、in Campus等で連絡する。 * 牧場における搾乳からバター、ヨーグルトおよびチーズ製造の体験 * 学外におけるパン製造工程体験 * 学外におけるそば等麺類加工工程の体験 * 伊豆沼で採集された在来魚・外来魚の加工実習 * 試作した食品の官能評価、物性評価 など。 その他 土曜日、日曜日、長期休暇期間等を利用した集中授業とする。実施方法についての連絡や、事前のガイダンスを見逃さないように注意すること。 水環境学実習と同時に実施する可能性がある。 (実務経験のある教員による授業) 学外での実習・フィールドワークを授業の中心に位置づけ、環境・食品関連の現状課題等を実践的教育によって学ぶ。

教科書／参考書

<教科書・参考書等> 教科書: プリント資料を配付する 参考書: ガイダンス時に指示する

成績評価方法・基準

延べ二日間の学外実習(あるいは所定の回数の学内実習)への出席が、評価の前提となる。実習時の学習状況(70%)と実習前後に課すレポート(30%)により、総合的に評価する。

履修上の留意点

<事前学習> 実習を安全に実施するために、ガイダンスで指示された準備は各自必ず実行すること。事前に配付された資料に目を通し、実習の流れや作業の手順などの概略を把握しておくこと。 <事後学習> 実習内容に基づいたレポートを指示どおりに提出する必要がある。 <他科目との関連> この科目は、講義科目で学ぶ知識や技術が実際の現場でどのように活用されているかを実際に目で見て体験するためのものである。これまでに学んだ科目や2年次以降に学ぶ専門科目との関連を意識して履修することが必要である。
--

担当教員へのアクセス

前田敏輝、鈴木英勝のいずれかの教員に直接アクセスすること

その他

土曜日、日曜日、長期休暇期間等を利用した集中授業とする。実施方法についての連絡や、事前のガイダンスを見逃さないように注意すること。 オフィスアワー: 授業終了後、研究室に来室して下さい。 (実務経験のある教員による授業) 学外での実習・フィールドワークを授業の中心に位置づけ、環境・食品関連の現状課題等を実践的教育によって学ぶ。
--